羽島市消防団広報誌

令和5年度発行

自分たちの街は自分たちで守る

正木分団が県操法大会へ出場し、6位の好成績をあげる！！

指揮者:炭竈　清貴

50 日間という短い訓練で、紆余曲折ありましたが、消防署・消防団の皆さんの指導・支援により、県大会で好成績を残す事が出来ました。厳しい訓練の中で、仲間の大切さや、人の繋がりの大切さをより一層学ぶ事が出来ました。県大会当日の、緊張感、感動、感激は今尚忘れる事が出来ません。
大人の部活最高です！！

操法県大会を終えて振り返ると、つながりと感謝の操法でした。ひとつの目標に向かって真剣に取り組むことができる操法は、人と人とのつながりを強くし、有事の際に大きなチカラになると確信します。操法、楽しかったです！消防団をはじめ、消防団活動を理解してくれた家族、応援してくださった地域のみなさまにも感謝します。消防団、最高です！

1番員:田中　祥平

2番員:安井　清貴

今まで応援して頂いた沢山の方々、本当にありがとうございました。振り返ってみると、大変なことも色々とありましたが、辛くて選手を辞めたいと思ったことは、一度もありませんでした。それどころか、日々の訓練が楽しいと感じていました。そう思えたのも選手、正木分団、消防本部、団本部の方々、また激励に来てくださった支援者の方々が優しく声を掛け、応援していただいたお陰だと思っています。
この貴重な経験を活かし、今後の活動に取り組みたいと思います。

入団して４年目ですが、自分が入団した時が、新型コロナの流行で、訓練という訓練が全くできない状況が続き、今回、初めての県操法大会の出場となりました。大会当日、それなりに緊張していたと思いますが、自分なりには訓練以上に、満足のいく操法が出来ました。不器用な自分の為に３月から長きに渡りご支援、指導してくださいました皆様、本当にありがとうございました。

３番員:磯部　裕樹

４番員:原田　晃

ポンプ車操法を通して、正木分団がより一層一致団結する事が出来たと思います。練習の途中で、指を挟み、骨折というハプニングが有りましたが、ここで諦めてたまるかと、自分にいいきかせて努力しました。この経験は恥ずかしさも有りましたがいい経験をしたと思います。結果は優秀賞(6 位)に入り、選手皆んな非常に喜んでいます。感動も与える事が出来たと思います。この県操法大会の貴重な経験をもとに、これからの消防活動の励みとして活動していきたいと思います。

消防団に女性が初入団　～注目の女性団員とは～

Q1：入団のきっかけは？
Q2：入団前の消防団の印象は？
Q3：入団してどうですか？

A1：女性が消防士として活躍するという海外ドラマに感銘を受け、入団を決意しました。自分自身、話下手なので人の為に働くという事はどういう事なのか、子供には背中を見て育って欲しいとの想いもありました。

吸管補助員:道家　里奈

A2：厳しく、きつい印象でした。

A3：実際正木分団の方々は、根っからの良い人達ばかりで分からない事もすぐ聞きやすかったです。
質問する→分かりやすい指導→練習する→出来るようになる→楽しいと感じました。
幸いなことに、まだ、現場出動はありませんが、有事に備え、これからも一所懸命に訓練に参加したいと思います！
ダイエット効果もあります！（笑）

県大会の様子はこちらから

羽島市消防団　活動報告　～前期～

４月９日　幹部・新入団員研修会

新しく入団した団員や、幹部に昇格した団員を対象に研修を行いました。

４月 16 日　大規模災害消防団員研修会

令和５年度より大規模災害消防団員（大規模災害時に限り出動する消防団員）へ研修を行いました。

６月 18 日　消防署・消防団合同火災防ぎょ訓練

大規模の火災現場を想定し、各分団同士が連携をとり、消火活動を行う訓練を行いました。岐阜県の防災ヘリとの連携訓練も行われました。

７月９日　普通救命講習会

心肺蘇生法やＡＥＤの使い方など、応急手当の技能を学びました。

８月６日　岐阜県消防操法大会

消防学校にて行われた岐阜県の大会へ、羽島市の代表として正木分団の選手が出場し、６位の好成績を収めました。

～消防操法技術競技会～　11分団で操法技術を競い合う！！

例年 11 月に、消防操法技術競技会が行われます。操法技術競技会とは「迅速、確実かつ安全に行動するために定められた消防用機械器具の取り扱い及び操作の基本について、その技術を競う競技会」です。各々の分団が、日々訓練に切磋琢磨し、市の競技会に挑みます。この競技会を経て、日常では味わえない、いろいろな経験を育むことができます。競技会を終えてのコメントをそれぞれ頂きました。

競技会結果

団体表彰

優　勝：上中分団
準優勝：小熊分団
優秀賞：竹鼻第一分団
優良賞：正木分団

優秀番員賞

指揮者：正木分団	松岡	竜太
一番員：上中分団	鈴木	佑太朗
二番員：竹鼻第二分団	熊田	安宏
三番員：上中分団	安江	誠

優勝　上中分団

この度上中分団は十数年ぶりに操法競技会で優勝する事が出来ました。これも、分団員の結束力の賜物です。選手、指導員、サポート、小池副分団長の指導計画全てが努力した結果だと思っています。分団員全員で勝ち取った結果でした。　上中分団の仲間と優勝の経験出来た事、誇りに思います。（分団長　大槻充）

今回、初めて操法大会・初めての指揮者として経験の無い状態から参加しまして、上中分団優勝という最高の結果を得られたのも、分団長をはじめ指導員の方々・諸先輩方や団本部の方々また、ＯＢの皆様等のご指導・ご支援・激励などがあったからこその結果だと思います。本当にありがとうございました。本番前の南部合同訓練時は散々な結果でしたが、ここ一番の本番に強い団結力のある上中分団だと実感しました。この経験を普段の訓練や出動時に活かせるよう活動していきたいと思います。ありがとうございました。
（指揮者　小川健太郎）

準優勝　小熊分団

今回指揮者を務めました野原です。今回の結果は、家族や小熊分団のメンバーまた練習の手伝いをしてくれた消防団 OB の方がいたからだと思います。

今後は操法の[よさ]や団員同士の[ぎずな]を後輩たちに伝えていくとともに、地域の安心の為に今後も頑張っていきます。（指揮者　野原誠司）

優秀賞　竹鼻第一分団

３位という結果を得ることができ大変嬉しく思います。この結果は選手の５人だけで得たものでなく、竹鼻第一分団全員で得たものです。今後も地域の安心と安全を守るために務めたいと思います。ありがとうございました。（一番員　大野翔平）

入団１年目で操法大会に出場させて頂き大変良い経験となりました。練習通じて消防の基本的な動きや小型ポンプの扱いなど色々と学ぶことが出来ました。今後の活動に役立てていきたいです。
（三番員　岩田訓治）

指揮者
正木分団　松岡竜太

今大会は、正木分団が単独で県大会に出場した後ということもあり訓練からモチベーション、レベルともに高い訓練をさせていただきました。また、操法だけではなく色々な事を学んだ貴重な時間となりました。お忙しい中、ご支援、ご指導して頂いた分団の皆様には非常に感謝しております。ありがとうございました。今回の訓練をもとに有事の際などに活かせるよう今後も頑張っていきたいとおもいます。

１番員
上中分団　鈴木佑太朗

今回、小型ポンプ操法ですが、羽島市消防操法技術競技会に向けての訓練の中で、指導して下さった指導員の皆様、道具やグランドのセッティングをしていただいた上中分団のサポート団員の方々には非常に感謝しています。しかし、途中で足を痛めてしまい選手や皆さんに迷惑かけてしまいましたが、小型ポンプの一番員として出場し、優秀番員賞をいただき大変嬉しく、驚きました。競技会を終えて、やはり消防団というのはやり甲斐があるし、やって良かったと思いました。上中分団の皆さん、本当にありがとうございました。

２番員
竹鼻第二分団　熊田安宏

本大会に出場するにあたり、細かい操作方法のレベルアップを目指して日々練習を実施してきました。皆さんの支えがあり、練習の成果を出し切ることができました。喜びと達成感をかみしめています。今回学んだことを火災出動に生かしたいです。

３番員
上中分団　安江誠

消防団に入団し８ヶ月で初の操法大会でしたが、上中分団として優勝、そして3番員として優秀賞をいただくことができて光栄に思います。この賞は私１人の力ではなく、共に操法大会に出場しました選手の皆さま、訓練でご指導、応援をいただきました上中分団の先輩方、そしてお忙しい中、激励にお越しいただきました消防団本部の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。これからも消防団活動に尽力致します。

競技会の様子はこちらから

羽島市消防団　活動報告　～後期～

１１月１２日　消防署・消防団合同特別点検＆羽島市消防操法技術競技会

前半の部では、服装点検・手帳点検からはじまり、ポンプ車・積載車の機械器具の点検が行われました。

後半の部では、羽島市の１１分団で、小型ポンプ操法の技術を競い合いました。

分団毎に、ベテランや新人から選手を選出し、この日のために日々訓練を行い、全力で披露しました。

１２月２６～３０日　年末夜間特別警戒

「火の用心」担当地区の巡回を行いました。

１月１４日　遠距離送水訓練

例年は消防出初式ですが、今年度は元日の能登半島地震を受け、大規模災害を想定し訓練を行いました。

広報班活動

地域に密着・貢献する消防団員の活躍を、市民の皆様へ、お伝えしていきます。ぜひ回覧板やホームページをご覧ください。

公式ホームページはこちら

指導計画隊　広報班

訓練指導計画隊隊長　久江　利明

編集長　竹鼻第２分団　山田　嘉紀

副編集長　福寿分団　細野　篤

副編集長　江吉良分団　橋本　新之助

広報員　小熊分団　浅野　剛士

正木分団　田中　祥平

足近分団　林　晃司

竹鼻第１分団　森　良平

上中分団　井村　公彦

下中分団　後藤　大輔

堀津分団　浅野　裕昭

桑原分団　森川　浩司